

令和元年11月18日 校長 高倉 満

□期末試験！ 緊張感を徹底させよう

テストや部活動でも大切なのは、のぞ（挑）む姿勢です。そのような姿勢をつくるために私たちは環境を整える必要があります。定期考査や学力テストは、日頃の小テストや単元テストとは少し異なるもので、1年生であっても高校入試に直結することを意識させる必要があります。もちろん入試問題や公立高校募集定員等の資料を教室に掲示したりして意識を高める工夫をしてある先生もいます。また今回配布する「未来への架け橋」は1年生、2年生にとってはいい機会です。入試問題がどう変わってきているのか、どんな力が必要とされているのか等を担任はもちろん、各先生方で授業の中でも話しをしてください。よろしくお願ひします。

期末考査は単に「これまで学んだことの確かめ」でなく、この3日間で「時間を守る」「時間いっぱいのおむ」「服装を整える」「困難なことから逃げない」ことを学ぶ機会でもあります。私は50分の試験に集中できない生徒や困難な問題に逃げる生徒が、部活の試合で集中できるとは思えません。テストは体育祭や文化祭などと同様に非日常における成長の機会です。テストが終われば3年生はいよいよ進路に向けた目標の再確認、1年生、2年生は具体的な目標を見失わないように、部活での目標や3学期に向けた新たな目標を持たせてください。目標も無く生活が崩れていくことが心配です。もし生徒指導上の課題があれば注意するだけでなく、徹底して直させましょう。当たり前ルールを守る頑張っている生徒は褒めましょう。努力している生徒を具体的に褒めましょう。そして私たちも学級や学年を越えて、情報交換を密にしながら、気になること、良いことを共有していきましょう。期末テストの採点、成績、通知表や入試事務など、忙しい日々が続きますが「one team」浮羽中で頑張っていきましょう。

□プロフェッショナル（監督の在り方）

ロシアワールドカップ、日本代表監督であった西野朗氏の言葉・・・そして私の思い

○強みを活かす

南米やアフリカの選手は個々のレベルが高い上に組織的である。しかしサッカーは予測して相手より少しでも早く動けば勝てる。・・・他の学校やクラスと比べて悲観するのではなく、今いる生徒の良さを見直して、その強みを活かす学年経営や学級経営をしていきましょう。

○自分達で考えさせる

前監督はワールドカップで勝つ方法を選手に言い過ぎて、日本らしさがなくなった。西野監督は「目的」は意識させたが、「戦術」は選手どうして考えさせた。時にはぶつかり合うが、目的は同じなので、前向きな意見が出て、良い化学反応がおきた。・・・教師はある程度成功する方法を知っています。しかし、それを押しつけすぎると生徒は新たな課題や想定外の状況に対応できずに、上手くないかたを人のせいになります。正解のない（納得解）課題をどうすれば解決できるか。そんなことを、部活や授業でも考えさせる必要がありますね。

○常に修正する

ボード上の赤と青の磁石の中では何でもできる。でも実際はうまくいかないことが多い。だからこそ、試合後のミーティングの時間を確保し、選手同士が思いを出し合うことで、よりよいものを創ろうとした。・・・部活も授業のやり方でも新たな事や生徒に任せる方法は最初から上手くはいきません。失敗したから「ダメだ」と諦めるのではなく、どこが悪かったのか、どのような段階で行えば良いのか等を、修正しながらやっていきましょう。生徒は、今、成長中です！

○想定させる

決勝トーナメントのベルギー戦に2-0で勝っていたが、残り30分で負けた。実は、あの強いチームに2点差で勝っているという想定がなかった。・・・このようなことをしたら、その後どうなる？友達や周りの人はあなたをどう見る。あなたの家族や相手の親はどんな思いをする。そして、あなたはどうなる？そんな想像力が育てば、生徒指導上の問題も減ってきますね。

○責任をもつ

ポーランド戦。後半は長谷部に「ボールを回せ」「イエローをもらうな」を全選手に伝えるように指示。中途半端は絶対にダメ。プレーの選手だけでなくベンチの選手まで徹底をした。そして責任は全て自分が負う。・・・最後は監督や教師が責任を持つ。あなたの後ろには私がいる。そんな安心感があるから、思い切ったことができる。学校の責任は全て校長です。どうぞ思い切った何事にも取り組んでください。生徒のために！